



年間第 19 主日 (ルカ 12:32-48△12:35-40)

主人は全財産を管理させる

「主人が召し使いたちの上に立てて、時間どおりに食べ物を分配させることにした忠実で賢い管理人は、いったいだれであろうか。」(12・42) 私はイエスのたとえを、自分自身に当てはめてみました。主人は教区長の大司教様、管理人は主任司祭です。主任司祭は小教区の管理人として選ばれました。主人は管理人が「忠実で賢い人」であることを期待しています。

この前初めて OK ホーム&ガーデンに行ってきました。家具の取っ手を買ったのですが、レジで古いものを見せて「この古い取っ手の代わりに今回これを買おうと思っています。大丈夫ですよ？」と何気なく尋ねたのです。

するとレジのお兄さんが、「うーん、どうでしょう？」と返事をします。私は内心「どうでしょうはなかろう」と思ったのですが、すぐに放送で「四番レジにスタッフお願いします」と呼び出しをかけてくれました。

すぐに店員が飛んできました。飛んできた店員が面白い。一人は田平教会の青年、もう一人は西木場教会の青年でした。私と知っていたわけではないでしょうが、「よお！」とあいさつしました。こんなこともあるのですね。

イエスがたとえで示したのは、「時間どおりに食べ物を分配させる」ということでした。ここで言われている「食べ物」を小教区で考えると、「秘跡の恵み」かも知れません。「時間どおり」とありますが、必要な時に、ということでしょうか。

洗礼を受けた人が必要な恵みは、おもに聖体と罪の赦しです。ミサを一年通して欠かさずできているかと言うと、これは不十分かも知れません。今週でも、土曜日の朝ミサは都合によりお休みを予定しています。さらにミサの中では聖体拝領だけでなく聖書朗読と説教があります。ミサはみことばの食卓と聖体の食卓とがあるわけですね。みことばの食卓に私の説教は十分奉仕しているのでしょうか。これも不十分かも知れません。「忠実で賢い管理人」となるために、これからも生涯努力し続ける必要があります。

洗礼を受けた人のもう一つ重要な恵みは赦しの恵みです。私は、ミサの前に告白場に座る時間が少ないと反省しています。どうしても聖堂に行くまでに時間がかかってしまい、赦しの秘跡を後回しにしていると思います。日曜日もそうですし、平日もそうです。

大きな祝い日の前にはまとまった時間を設けます。このまとまった時間は、まずは皆さんのためですが、同時に主任司祭のためでもあります。主任司祭はこの長い時間を使って、自分自身の糾明と痛悔の時間にもなっているからです。どうぞ、利用して欲しいと思います。

祝い日の前の赦しの秘跡に参加する人、また黙想会の赦しの秘跡に

参加する人は、神様が私たちが赦してくださることが恵み深いことだということをゆっくり考える機会にするとよいと思います。私たちは小さなことでもゆるせなかつたりしますが、神は私たちが赦すためにご自分の御子さえも差し出したのです。

ですから神の恵みを確実に届ける「忠実で賢い管理人」は、何よりもまず神ご自身です。恵み深いことなのだ、と、ゆっくり思いを巡らしてみるとよいでしょう。

最後に、「忠実で賢い管理人」に約束された報いは何でしょうか。

「確かに言うておくが、主人は彼に全財産を管理させるにちがいない。」(12・44) 財産とは何でしょうか。まさか小教区の会計とか、お賽銭とかではないでしょう。「全財産を管理させるに違いない。」全財産とは何でしょうか。

主任司祭には一つの答えがありますが、答えを言わずに終わろうと思います。説教は答えをすべて言うだけが説教ではありません。考えさせ、その人が答えにたどり着いたり、その人が道を切り開いたりするために聖書をひもとき話すのが説教です。

「主人は彼に全財産を管理させるに違いない。」非常に重みのある言葉です。説教の最初に触れたように、教区長が管理人として主任司祭を小教区に派遣しました。「忠実で賢い管理人」に全財産を管理させます。私も、全財産を責任を持って、誠実に管理したいと思っています。

聖母の被昇天(ルカ 1:39-56)